

島津印刷 株式会社

●代表者/代表取締役 島津 延明 ●創業/1963年8月 ●従業員数/115名
●所在地/新潟県新発田市富塚1419 ●URL/www.shimazu-pnet.co.jp

グループの力発揮のため MISと連携でさらなる自動化へ



木川取締役



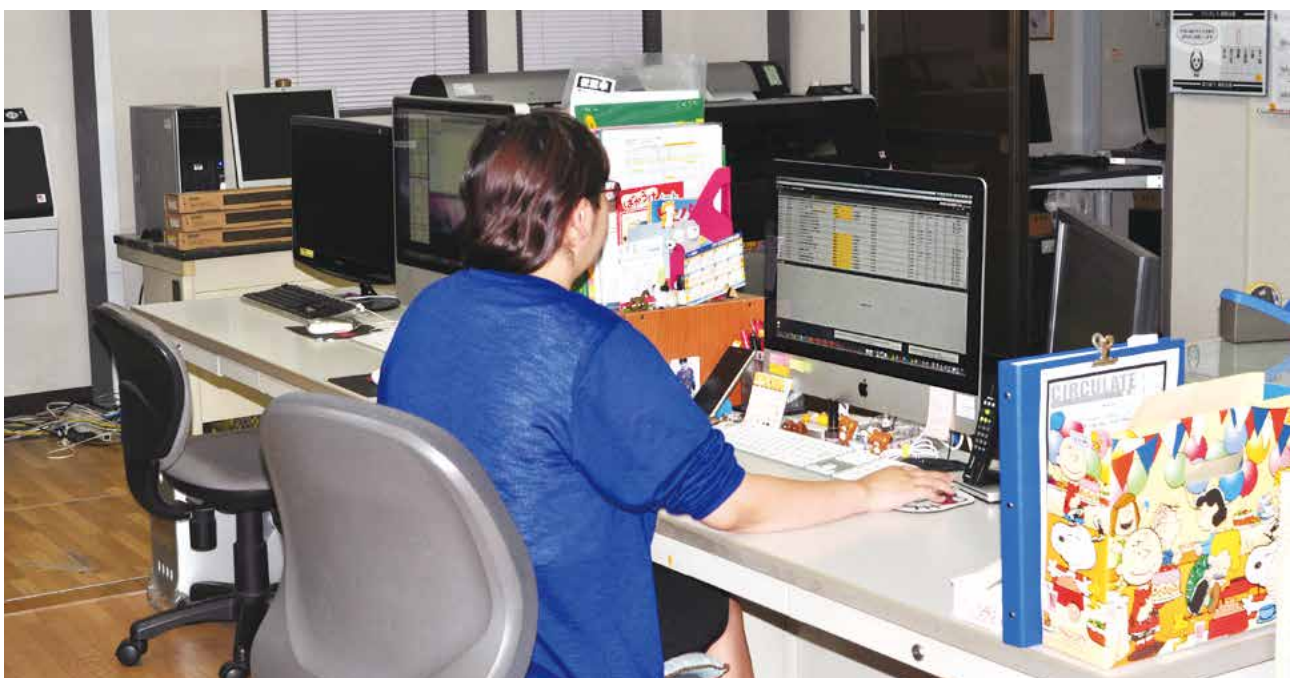
久保田課長

島津印刷(株)は、グループ会社5社で形成する「島津印刷グループ」の中心会社であり、昨年12月、同グループ5社の持ち株会社として、島津ホールディングス(株)(島津延明社長)を設立した。島津印刷は昭和24年創業で、今年で66年目を迎える。「私達は、会社と仕事を取り巻く全ての人々の最大の幸福を実現する事を使命とする。」を企業理念に24時間体制で顧客のニーズに応えている。同社が「XMF」を導入したのは3年前である。

導入に至った経緯について、今後はグループの力を最大限に発揮できるようにと、1bitTIFFデータを活用したセンターRIPでの運用を想定していた。導

入前に「XMF」を活用している同業他社を見学し、これなら実現が可能だと確信した。更に、当時活用していたWebポータルより「Remote」が優れていると判断したからである。

導入前は出力機毎にRIPが存在していたため、各出力機で結果が異なる心配があったが、「XMF」によるセンターRIP運用により、この問題は解消したという。同社では現在、2つのワークフローシステムを保有しているが、特殊な前処理作業が必要な一部の仕事を除き、ほとんどの仕事を「XMF」で処理し、自社制作のものについては「XMF」に全ジョブ登録を実行している。



社員の負担低減も

「XMF」を普段利用しているのは制作部門のメンバーだが、テンプレートを選択するだけなので、使い方は至ってシンプルだ。また、テンプレート内には面付け設定やプルーフ出力設定など、様々な設定があらかじめされているため、制作メンバーは意識することなくセンターRIPとしての「XMF」を使いこなしているという。

センターRIPに加えて注目した一つが「XMF Remote」である。短納期のチラシ制作の場合、納期優先であるがゆえに、責了になるケースが多いのだが、「もっと大きく」といった曖昧な修正指示の場合に、誤解が生じてトラブルになるケースが発生していた。

「Remote」は最終完成物をWeb画面からいつでも確認できるので、「Remote」を活用してからはこの手のトラブルは無くなったという。「責了によるトラブルをなくすためには、発注者から直接修正指示を受けている担当営業が最後まできちんと見ることが重要だ。『Remote』は操作がわかりやすいので、モバイルツールなどに抵抗のない若手営業から取組みを進め、今では多くの営業が活用している。また、協力会社や発注者にも『Remote』の利用は着実に広がっている。今期は『Remote』の取組みを年度方針に掲げ、お客様への運用拡大も加速させる。」と同社の木川博司取締役工場長は話す。

同社は1bitTIFFでの運用を行っており、容量は大きいですがデータの信頼性が高いことから、プルーフも1bitTIFFデータをインクジェットプリンタ及びカラーレーザープリンタから出力できるワークフローを構築。

色管理は標準印刷認証取得済みのJapanColorで管理しており色のトラブルも起きていない。

「新規取引されるお客様の中には、お客様が出力した色見本を持ち込み、この色がなぜ印刷会社で

再現できないのか?といった意見を言ってくるお客様もいらっしゃる。こういったお客様にはカラーマネジメントやRIPの基本について丁寧にご説明しつつ、当社の運用はお客様側にもメリットがあることを理解していただいている。そうすることで、信頼を寄せていただき『Remote』の採用に繋がるケースも多い。」と画像処理課の久保田敦課長は言う。

導入した「XMF」で自動化を進めている同社だが、「XMF」導入後は自動化されている工程のミスが無くなったのはもちろんのこと、検版工程でもミスが減ったという。従来は校正紙による目視検版だったため、赤字部分以外に変更を加えてしまった場合に変更箇所を見落してしまうことがあり、担当者の大きなストレスになっていた。現在では「Remote」によるデジタル検版を徹底しているので、見落としによる事故が無くなっただけでなく、社員の負担も減った。同社では仕事量が増えているのに人件費は削減に転じている。さらに、同社の「見える化の取組み」のひとつで月次決算を全社員に公開しており、一般社員も自分の会社の数字が見えるようになっている。

「こういった取組みで、当社では人の指示を待ってから動くのではなく、社員一人一人が自分のやれることは他にもないかと考えるように意識が変わった」と木川取締役。

センターRIPを導入し、島津印刷グループ全体でワークフローを統一しようとしている同社は、自社開発したMISとの連携も計りたいと思っている。6年前に開発したMISもバージョンアップを重ねており、社内の基幹システムとして熟成されてきた。そこで、「XMF」と連携させ、さらなる自動化と見える化を進めていきたいと考えているのである。